

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8354
担当部課名	保健福祉部	高齢者福祉課	生きがい係	
事務事業名	老人クラブ連合会補助金		事業コード	11220

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第2節	いきいきとした高齢社会の創造	~63年度
施策名	第2施策	高齢者の社会参加と生きがいづくり	

2 実施根拠及び関連法令等

関連法令	国法律（老人福祉法第13条第2項）、市老人クラブ連合会運営費補助金交付要綱
------	---------------------------------------

3 事業概要

(1) 事業の目的 高齢者の皆さんが、社会活動や趣味・レクリエーション活動を通して仲間づくりを進め、生きがいを高める。		(2) 対象（誰、何） 老人クラブ会員	
		対象数	14,938人
(3) 平成13年度事業の内容 高齢者芸能大会、全国一斉社会奉仕の日（9/20）、スポーツ大会、ゲートボール大会、ベタンク大会、高齢者作品展、友愛活動（在宅で寝たきりの会員や、一人暮らしで虚弱の会員を激励・慰問）		(4) 総合計画・実施計画における概要 老人クラブ活動の支援	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	相模原市高齢者保健福祉計画
		計画年次	12年度～16年度
		老人クラブ活動の支援	

4 評価指標

指標名	老人クラブ会員増加率	60歳以上の加入率
指標式	今年度クラブ会員数/前年度クラブ会員数	加入率/目標加入率
指標設定の意図	年々高齢者人口が増加するなかで、老人クラブ会員は減少傾向にある。若年高齢者の加入促進を図り、加入率の増加を図る	年々高齢者人口が増加するなかで、老人クラブ会員は減少傾向にある。若年高齢者の加入促進を図り、加入率の増加を図る

5 目標と実績

〔金額単位：千円〕

	平成11年度	平成12年度	平成13年度（評価対象年度）		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標			a 15,010	b 15,100	15,100
指標			c 14	d 15	
指標			e	f	
事業費	決算（予算）額	28,408	28,638	28,638	28,638
	人員・時間数		(1.5人)	(1.5人)	(1.5人)
	人件費		12,630	12,630	12,630
	その他経費		0	0	0
	合計	28,408	41,268	41,268	41,268
特定財源		7,220	7,111	7,111	7,332

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか														
評価 B ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 97.6%												
	B:一部達成していない(100%> 80%)													
	C:達成していない (80%>)													
a	15,010.0	b	15,100.0	$\times 100 = 99.4\%$	c	14.4	d	15.0	$\times 100 = 95.8\%$	e		f		$\times 100 =$
理由:	平成14年度は、加入率の低下を防止する施策として、会員増強月間を設けて会員増を図る必要がある。													

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A:適応している	理由:	昭和38年に制定された老人福祉法において「地方公共団体は、老人クラブその他老人の福祉を増進することを目的とする事業を行う者に対して、適当な援助をするよう努めなければならない」と定められている。
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A:妥当である	理由:	相模原市老人クラブ連合会から提出された「運営補助金の実績報告書」の内容から、経済性・効率性は妥当であると判断される。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 A ▼	A:代替の可能性ない	理由:	老人クラブ活動の進展に伴い、事務局・事務室等の機能を強化する必要がある。将来的には、老人クラブ専用の事務室を確保するとともに、事務局も老人クラブ独自で運営していくことが望ましいと思料される。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 A ▼	A:満足できる	理由:	60歳以上人口は年々増加していくなかで、老人クラブ会員数は減少傾向にある。魅力あるクラブづくりに努めるとともに、若年高齢者の加入促進を図り、対象となる市民の拡充を図る必要がある。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A:有効である	理由:	高齢者に対する施策や市政全般にわたり、老人クラブの協力が必要な事業が多々あり、市にとっては老人クラブに対する補助金は今後も重要である。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない		<p>説明:</p> 活動内容の充実とともに加入促進をはかる。
	<p>コスト改善余地</p> <input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない		<p>説明:</p> 高齢化社会における高齢者の社会参加や生きがいづくりを図る上で欠かせない組織であることから、今後も積極的な支援を図る必要がある。

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	全国的に加入率が低下しており、活動内容の充実とともに加入促進に努力している。 国平均 32.3% (平成10年) 県平均 19.1% (平成11年)
	今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	説明	現在、単位クラブでは、会員から月100円の会費を徴収しているのが大半である。クラブの活動は表面の、「事業の内容」に記載したとおり多々の事業をしており、補助金の削減をした場合、活動の縮小やクラブ員の支出を増大させる事となる。老人クラブは、これからの高齢化社会において高齢者の社会参加や生きがいづくりを行うに欠かせない組織であることから、今後も積極的な支援を図る必要がある。
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--